

5年生部会



平成28年6月20日
No.3 (文責：澤田)

6月に入り、2回の部会が行われました。実際の授業を想定した話し合いが増え、部会の主張や課題が明確になってきました。

第5学年部会で目指す子ども像を、以下のように設定しました。

「身近な社会的事象を通して工業生産に従事している人々の工夫や努力を価値付け、
限りある資源の有効な活用と持続可能な日本の工業の発展について自ら判断する子ども」

製紙業の教材化について

自動車工業と製紙業を比べながら、教材としての価値や単元での取り上げ方を再度検討しました。

教材化のストロングポイント	授業づくりの課題
<p>○指導要領の具体化 「様々な工業製品が国民生活を支えていること～」 <u>軽工業の代表として、国民生活を支えている事例</u>を取り上げることができる。</p> <p>○子どもが主体的に使う物である 自動車は、乗っているけれども自分の意志で運転してはいない。</p> <p>○日本の<u>高い技術</u>や<u>持続可能性</u>などが見える</p> <p>○ほかの工業製品にも転用可能</p>	<p>●単元全てを製紙業で通すのは… 多くの関連工場をもち、貿易も盛んな自動車工業でも、<u>単元全てを網羅することはできない</u>。 小単元1～3は自動車工業を扱い、小単元4「これからの工業生産」で製紙工業を扱うのが妥当。</p> <p>●具体的な人物は？ 何を取り上げるのか、<u>本時の核になる教材</u>をもっと検討する必要がある。</p> <p>●<u>もの</u>として、何を取り上げるのか？</p>

教材化の核は！？

『セルロースナノファイバー』

世界が注目する新技術、開発段階なので調査が必要！

『再生紙（リサイクル）事業』

持続可能な社会が見える、将来につながる営み！

次回までに調査すること！

セルロースナノファイバー、再生紙事業の二つを取り上げた本時案をつくって、検討しました。どちらも、現代社会の背景が見えてくる良い教材だと考えました。ただ、視点1の地域に誇りをもつ教材といえるのか、教材ありきの本時にならないか、という懸念材料を払拭すべく、45分間の授業をもう一度練り直す必要があると考えます。他製品やリサイクル方法についての教材研究をさらに進め、王子製紙苫小牧工場のストロングポイントを再度見直していきます。それをもとに単元構成についても、製紙工場で主張すべき点を精選していきましょう。